



植柳の風

八代市立植柳小学校 校長室便り
平成29年12月18日 NO. 76

意識を行動化するまで

先週、神奈川県川崎市内の市道で、電動自転車をスマホを見ながら運転していた大学2年の女子学生が、歩道を歩いていた女性と衝突。女性は、転倒し頭を強く打って病院に運ばれたが、その後、死亡されたという事故が新聞やネットで報道された。女子大生は、重過失致死傷罪で（5年以下の懲役又は禁錮、又は100万円以下の罰金）で書類送検されたそうである。

自転車にまつわる悲惨な交通事故が後を絶たない。熊本県内の事故統計を見ても、10月末現在、自動車運転中の死者が15人（前年比-5人）に対して、自転車乗用中の死者は8人（前年比+3人）と増加している。高校生以下の交通事故発生状況の統計を見ても、死傷事故原因の71%を自転車乗用中が占めている。また、その自転車事故原因の多くが「安全不確認」（20%）、「交差点安全進行」（14%）「一時不停止」（8%）などとされている。



「意識は着実に少しずつ変わってきています。しかし、それが まだまだ生徒全体の行動化には至っていないのが現状です。」

14日（木）、八代工業高等学校で開催された交通安全教育研究発表会に出席した。昨年1学期、熊本県教育委員会の研究指定校となったことを学校訪問をして知った。本校校区を走る高校生の自転車の事故、マナー等も懸念される事案が多々あったことから、校長先生や生徒指導の増田先生たちと連絡を取り合ってきたが、小学生が高校生の通学の姿をどのようにとらえているかなどのアンケートを採ったり、危ない行為等を朝の自転車パトロールなどで発見したらすぐに連絡したりするなど協力し合ってきた。



全体会では、八代工業高等学校の2年間の研究内容についてプレゼンで紹介された。本校でも取り組んでいる危険予測訓練学習や安全運転行動カード等の作成をはじめ、交通安全講話、スケアード・ストレイ交通安全教室、ロールレタリングなど、様々な工夫がなされていた。

交通安全講話は、自分のお子さんを交通事故で亡くされた保護者の話を聞く学習であるが、涙を流しながら聞いていた生徒たちがいたことが報告された。



スケアード・ストレイ交通安全教室とは、恐怖を実感させることで、危険な行為を行わせなくすることをねらった安全教育の一環で行われる学習である。プロのスタントマンが交通事故の発生状況を実演し、危険な行為がどのような重大な結果をもたらすのかを見せ、交通ルールを遵守することの大切さを学ばせるものである。この学習は、生徒のアンケートでも、大きな衝撃を与えていたことが報告された。

ロールレタリングという手法は、今から30年ほど前に日本で考案された手紙を使った心理的な支援を行う方法。ロールプレイという言葉は、役割演技をする手法であるが、このレタリングは、役割を交換して手紙を書くというやり方。事故を起こしてしまった加害者の立場で手紙を書いた後、次に亡くなった被害者の家族の立場になって加害者に手紙を書くという形式である。心に深く訴えるこの学習は、確かな手ごたえがあったそうである。校長先生や増田先生は「意識を行動化するまで、本校の取組はこれからも続く。」と力強く結ばれた。

